

## 一本杉通り

一本杉通りは、商店街である。ここは、七尾が「北前船」の重要な港だった頃に栄えた。「北前船」は、江戸時代（1603–1867）から 20 世紀の変わり目にかけて、日本海側で貿易を行っていた。

一本杉通りは、御祓川にかかる赤い橋から始まり、北西に伸びる約 450m の通りだ。この通りは、店舗沿いに伸びている。この通りの店舗の多くは、古い建物の内に入りており、古いものでは 1800 年代終わり頃のものもある。

注目すべき店舗に「鳥居」がある。1926 年から、木樽で醸造し自然に発酵させた自家製の醤油を販売している。「鳥居」では、事前予約で醤油造り体験を受け付けている。

この店舗の多くは、それぞれ北前船と取引を行っていた。「しら井」は、80 年間、昆布を専門に取り扱っている。北日本の重要な産物である昆布は、北前船により石川県でも入手できるようになった。「高澤」は、1892 年から和ろうそくを作り、販売している。七尾でのろうそく作りは、江戸時代（1603–1867）に始まり、北前船がろうや和紙といった重要な原料をもたらしたことにより栄えた。

一本杉通りから数歩離れたところに、「花嫁のれん館」がある。花嫁のれんとは、新郎の家のドアに吊るされる暖簾を指す。地元の結婚式の習慣では、花嫁が新しい家に入るときは、こうした手作りの暖簾をくぐることから始まる。こののれん館では、19 世紀から現在までの暖簾が展示され、発展の様子がわかるようになっている。